

(公開学習Ⅰ) 小学校第5学年1組 音楽科学習指導案

授業者 大野 桂
小学校 音楽室

1 題材名 豊かな表現～変化を追って～ 「ます」

2 授業構成

(1) 教師と教材

本題材は、新学習指導要領で次のような内容に位置づけられている。

B鑑賞 (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やよさを理解すること。

本題材の作曲家シューベルトは、歌曲の王として知られる作曲家である。本題材は、まず歌曲の「ます」を鑑賞し、次に変奏曲の「ます」を鑑賞する。そして、それをもとに簡単な変奏曲づくりに取り組み、さらに楽曲の構造の理解へと発展させたいと考えた。

歌曲「ます」は、詩と音楽が織りなす世界に浸りながら旋律から「ます」が川を泳ぐ場面を想像しやすく、子どもたちにとっては詩の世界と音楽とが自然につながって感じやすい。一方、ピアノ五重奏「ます」は変奏曲の構造を理解して聴いたり、楽曲の特徴やよさを感じ取ったりすることができる楽曲である。旋律には、前時の詩を重ねて聴いている子どもたちが、徐々に歌曲とのさまざまな違いを見出すことができるだろうと考える。

本時は、変奏曲「ます」の変化していく部分にどんなしかけがあるのかに焦点をあてて鑑賞し、変奏のまとまりや構造に目を向けられるような授業を構成することにした。

(2) 子どもと教師

本学級の児童は、4年生でオペラを鑑賞している。そのときには、場面の様子を思い浮かべながら聴く楽しさを味わったり、歌声の迫力や美しさに感動したりしながらオペラの世界に浸っている。また、5年生になって「花のおくりもの」を学習し、児童合唱を鑑賞する活動を取り入れ、楽曲のイメージを膨らませて楽曲に合った歌い方の工夫をしてきた。「天使の声」「透き通るような声」「やさしさを包み込むようなイメージ」「あたたかでふんわりした感じ」のように、イメージしたことを声で表現しようとグループで聴き合いながら練習をくり返し、自分たちのイメージに近づけていった。一方で、旋律の美しさに気づかせたり、和声の響きに感動させたりする活動が十分ではなく、ブレスの部分がフレーズの途中になってしまったり、強弱のない一本調子の歌になったりした。そこで本題材では、表現と鑑賞、鑑賞と表現を上手くリンクさせ、系統立てた学習活動にしたいと考えた。こうした学習活動を通して、子どもたちがこれから出会う音楽に対して、単に美しいとか激しい感じがすると感じるだけでなく、美しさや激しさがどんなしかけによってそう感じさせるのかを捉え、より豊かに音楽を楽しむことができるようになることを考える。

(3) 子どもと教材

今年の朝の音楽がシューベルトのピアノ五重奏「ます」に変わり、子どもたちは毎朝ピアノ五重奏の「ます」を耳にしている。短い時間のために、主題をくり返し毎朝聴いている状況である。こうした生活経験をしていることで曲のおもしろさを構造から探る活動に取り組みやすいと思われる。子どもたちにとっては毎朝耳にしているピアノ五重奏の「ます」とは異なる歌曲「ます」の存在に驚き、曲の構造よりも様子を思い浮かべながら曲を聴いて両者の違いを発見するだろう。

指導にあたっては、演奏形態の違いによる印象の違いを感じ取ったり、ピアノ五重奏の構造を「変化」というキーワードで捉えたりしながら、表現の豊かさを実感し、それを変奏曲づくりに生かすことで、題材のねらいを達成できるようにしたい。そこで変奏曲の構造の理解を深めるために、主題部分をしっかり把握したり、変奏部分がどう変わっていくのかを同じ部分と違う部分を発見させたりすることが必要となる。くり返しCDやピアノを聴いたり、歌ったりする活動を取り入れて主題を把握したうえで本時の学習にあたるようにしたい。

本時はいつも聞き慣れている朝の曲「ます」の最後がどうなっていたのか、多くの変奏部分で成り立っているなど、子どもたちの驚きや気づきを出発点として展開したい。そして、変奏の違いを聴き取ることができるようにワークシートを活用したり、楽譜を掲示したりして、視覚的な支援も行い、聴き取ったことを理解につなげたい。

3 題材の目標

- ・楽器の響き合いの美しさや、表現の多様性など、アンサンブルの魅力を味わって聴く。
- ・楽曲の構造を理解して聴く。
- ・変奏曲について理解し、簡単な変奏曲づくりに生かす。

4 学習計画（全3時間）

- 第1時 シューベルトとの出会い ～歌曲の王 シューベルト～
- 第2時 変奏曲「ます」の構造に迫る・・・本時
- 第3時 変奏曲づくりに挑戦

5 本時の学習について

(1) 本時の目標

変奏曲「ます」の構造を「変化」をキーワードにして捉えることができる。

(2) 期待される児童の様相

- A 変奏曲のおもしろさを曲の構造から捉えたり、自分なりの言葉で変奏部分を表現したりすることができる。
- B 変奏曲のおもしろさを曲の構造から捉えることができる。
- C 変奏曲が主題の変化によって成り立っていることを理解する。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ●教師の支援)

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じフレーズが何回も出てきた。 ・楽器がリレーしていく感じ。 ・こわい感じの場面があった。 	<p>○前時の学習をふまえて、本時はピアノ五重奏「ます」の曲の構造に着目して、おもしろさを発見できる鑑賞をすることを理解させたい。</p> <p>●前時の学習での感想や気づきを掲示して、学習を想起させることにつながる。</p>
<p>ピアノ五重奏「ます」のおもしろさにぐっとせまろう</p>	
<p>2 主題部分を確認して、全部分を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここはまだ主題部分だなあ。 ・曲の感じが暗くなるよ。 <p>3 どのように違うのか変奏部分を聴き、構造にせまる。</p>	<p>○鑑賞する際に、主題の大きなまとまりを意識して聴くことができるようにしたい。</p> <p>●ピアノ五重奏「ます」の構造を掲示して、曲を通して聴く中で、まとまりの変わり目を挙手で確認する活動を取り入れる。</p> <p>●変わり目分からない子どもがいると思うが、周りの友だちの様子を見ながら挙手できるように促し、変わり目の時点で挙手マークを黒板に提示する。→個人(近くの友だちと)</p> <p>○全体の構造を捉えさせ、変奏の違いに焦点をあてたい。</p>
<p>どこが同じでどこが違うのだろう。どのように同じでどのように違うのだろう。</p>	
<p>①主題部分を聴き、楽器の音色を確認する。</p> <p>②変奏部分を聴きながら、ワークシートに書き込む。</p> <p>③書き込んだことを発表する。</p> <p>④構造を図式化したり、言語化したりしながら整理する。</p>	<p>●初めに主題部分をかけて、主題の旋律やそれぞれの楽器の音色を確認することで、その後の変奏や楽器の変化に気づけるようにする。</p> <p>●主題→5つの部分→コーダ(決尾)、同じ部分・違う部分をまとめられるようにワークシートを活用する。</p> <p>●活動が不安な子どももいると思うので、となりの友だちと相談しながら探ってもいいことを伝える。→個人または友だちと</p> <p>●発見したことを整理しながら発表できるように色や楽器カードを活用し、視覚的にも構造が捉えられるようにする。</p> <p>○「変化」「変わる」などの言葉が出たら、変奏曲という言葉をおさえない。出なかったら、教師側から説明し、変奏曲をおさえる。</p>
<p>主題をAで表すと、変奏部分はどう表せるだろうか。また、言葉で表現する場合は主題→変奏1→変奏2→・・・はどう表現するのだろうか。</p>	
<p>4 再度曲の全部を聴き、曲の構造のおもしろさにせまる。</p> <p>5 本時の学習の振り返りを発表する。</p>	<p>●△△な主題、◇◇の主題というように、短いタイトルでまとめるようにして、変奏の特徴が捉えられるようにする。→グループ</p> <p>○発表して出たことを板書でまとめ、グループでの気づきを共有することで、曲の構造のおもしろさを実感できるようにする。</p> <p>○ピアノ五重奏「ます」のおもしろさがさまざまなしかけによって成り立っていることに気づけたかどうか、また、そのしかけは何なのか理解できたかどうかを振り返るようにさせたい。</p>